

「台風の恐しさを体験して」

豊岡市立但東中学校

三年一組 桑田美菜子

あのすさまじくて、大きな傷跡を残してすぎさった台風二十三号から一年が立ちました。一年前とはみちがえるほど変わった所もあれば、そのままの状態になっっている場所もあります。

私はあの日のことで、台風がこんなにも恐しいものだということを始めて知りました。

あの日は、学校が休校でした。私はいつもの台風だと軽く考えていたので、あんなことになるとは想像もしていませんでした。風や雨がしだいに強くなっっていくのを感じながらテレビの台風情報を人ごとのように見ていました。

母が帰ってきて

「家の後ろがすごいことになっっている」

と言うので見に行くところから流れってきたか分からない土砂や泥水が家にせまっていた。ました。そんな中、どうしても行かないといけ

ない所があるので、車で少し出かけたなら、朝見た風景とは大違いになっていました。川は泥水がいっぱいになり、今にも道路にあふれてきそうです。バス停はもう流されています。その上、車で通ったところに土砂くずれが起きたのです。私達は危機一髪で逃れることができたけれど、少しその道を通るのが遅かったら巻き込まれていたかもしれないと思うと、背筋が凍る思いでした。何とか無事に帰ると、泥水が家の中まで入ってきていました。

幸い床上まではいかなかったのですが、テレビで台風情報を見ていたら、十時頃停電して、そこから電気がつかなくなりしました。そばにあつたらうそくをつけていたのですが、危ないので寝ることにしました。

朝起きると、昨日の雨と風がウソのように晴れていました。外に出てみると、驚いたことに、家の前の国道が水に流されてなくなっていました。その上、いろんな所で土砂く

ずれが起きていました。こんなことになるとは思ってもいなかっただので、目の前のこの状況が信じられませんでした。

昼頃父が消防の服を着て帰ってきました。配給が届いたみたいなので、私達も台車を持って近くの人に配りました。その夜は、配給でもらったお湯を入れて三十分たったら食べられる御飯を食べました。それから起きていても何もすることがないので寝ました。

十一一時頃、誰かに懐中電灯で顔を照らさ

れたので起きて下へ降りると、父がいて部屋には電気がついていました。電気がつくのがこんなふうにうれしかっただのは始めてです。次の日の夕方には、水も出るようになって、交通のことで以外は心配がなくなりました。道路がなくなっただので、学校へは歩いていくことになりました。平田の外の被害も大きくて、さらさら驚きました。

今回、私は自然の脅威を改めて感じさせられました。この体験を忘れず、次の手だてを

考
え
る
教
訓
に
し
た
い
で
す。

岡山県教育委員会

三木

市

立

本

学

校